

コロナ危機を乗り越える、現金保有率の高い居酒屋企業ランキング

学籍番号：23819

氏名：飯田 博

作成日：2020年6月26日

新型コロナウイルスが世界経済に深刻なダメージを与えている。

特に自粛要請で甚大な影響を受けたのが、外食業界。3月、4月は歓送迎会シーズンで、居酒屋業界では12月の忘年会に次ぐ繁忙期に数えられる。コロナが2月の居酒屋企業に与えたインパクトは比較的軽微でしたが、3月の売上は前年対比で40～60%程度と深刻な事態が見込まれる。個人店などの小規模な店舗は、家賃や人件費が払えず閉店へと追い込まれるケースも目に付くようになった。

キャッシュが回らなければ倒れてしまう、それは大企業でも同じだ。コロナ禍を乗り越える重要なカギこそが現金である。上場居酒屋企業の現金保有率をランキング形式でまとめた。

【現金保有率ランキング(百万円)】

位	企業名	ブランド	売上	月商	現金	現預金月商比率	総資産	現金が総資産に占める割合
1	ヨシックス	や台ずしなど	17,934	1,495	5,751	3.8	10,633	54.10%
2	SFPホールディングス	磯丸水産など	37,751	3,146	8,204	2.6	22,585	36.30%
3	ジー・テイス	村さ米など	24,798	2,067	5,346	2.6	22,425	23.80%
4	大庄	庄や	61,032	5,086	12,800	2.5	42,805	29.90%
5	ハブ	HUB	11,550	963	2,047	2.1	5,903	34.70%
6	串カツ田中	串カツ田中	10,010	834	1,646	2	5,578	29.50%
7	チムニー	はなの舞など	45,685	3,807	7,193	1.9	28,146	25.60%
8	梅の花	梅の花	19,499	1,625	2,885	1.8	28,737	10.00%
9	コロワイド	甘太郎など	244,360	20,363	33,854	1.7	222,301	15.20%
10	三光マーケティングフーズ	金の蔵 Jr. など	10,701	892	1,420	1.6	6,795	20.90%
11	鳥貴族	鳥貴族	35,847	2,987	4,190	1.4	17,127	24.50%
12	DDホールディングス	九州熱中屋、わらやき屋など	50,973	4,248	5,801	1.4	26,553	21.80%
13	ワタミ	ミライザカ、鳥メロなど	94,701	7,892	9,946	1.3	40,273	24.70%
14	ヴィア・ホールディングス	魚や一丁など	26,778	2,232	2,643	1.2	16,530	16.00%
16	エー・ピーカンパニー	摩田農場など	24,577	2,048	2,161	1.1	10,651	20.30%
15	テンアライド	天狗など	15,271	1,273	1,421	1.1	9,105	15.60%
17	ワイズテーブルコーポレーション	XXE	13,773	1,148	963	0.8	4,621	20.80%
18	ジェイグループホールディングス	芋蔵など	15,056	1,255	537	0.4	11,324	4.70%
19	ダイナックホールディングス	響、鳥どりなど	37,190	3,099	587	0.2	14,852	4.00%

トップを独走したのがヨシックス<3221>。寿司居酒屋「や台ずし」や全品280円の格安居酒屋「ニパチ」などを全国展開している。現預金月商比率は安全と言われる3倍を余裕で超えている。総資産に占める現金の比率も54.1%となっており、他社と比較して圧倒的に高くなっている。流動比率は231%。安全性の高い企業だといえる。

第2位は、2013年にクリエイト・レストランツ・ホールディングス<3387>に買収された、SFPホールディングス<3198>である。「磯丸水産」や「鳥良」などの居酒屋を展開している。SFPは2019年から活発にM&Aを実施している。「前川水軍」を運営するジョー・スマイル(本社:熊本県熊本市)、「からあげセンター」のクルークダイニング(本社:長野県安曇野市)を次々と子会社化した。攻めの経営をする一方で、安全性もしっかり確保している。現預金月商比率は

2.6、総資産に占める現金の割合は36.3%である。

居酒屋「村さ米」、「アントニオ猪木酒場」などを運営するジー・テイス<2694>が3位となった。現預金月商比率は2.6となっている。総資産に占める割合は、SFPよりやや低い23.8%である。

今回リストアップした企業の現預金月商比率の平均値は1.7、現金が総資産に占める割合の平均は22.8%でした。一般的な知名度の高い企業はその周辺に位置しています。「甘太郎」のコロワイド<7616>は1.7、「金の蔵 Jr.」の三光マーケティングフーズ<2762>が1.6、鳥貴族<3193>1.4、ワタミ<7522>は1.3となっている。

「響」のダイナックが最下位の0.2倍

下位は「響」や「鳥どり」などを運営するダイナックホールディングス<2675>でした。現預金月商比率は0.2倍。総資産に現金が占める割合は4.7%となっている。ダイナックは従業員の平均年収が7.2百万円と極めて高い水準にありました。今回調査した企業の平均年収は4.7百万円である。

同社はサントリーホールディングス(本社:大阪府大阪市)が61.7%の株式を保有している。現金の保有比率は低いが、売上高がグループ全体で2兆5000億円を超える巨大企業の傘下にあるため、安全性は高いと考えられる。

ダイナックに次いで比率が低かったのが、ジェイグループホールディングス<3063>。現預金月商比率は0.4、総資産に占める割合は4.7%。同社は居酒屋「芋蔵」を主力業態とする企業です。「ルーセントマリアージュタワー」などの結婚式場も運営しています。2019年2月期の売上高は150億5600万円(0.6%増)、営業損失が5100万円、経常利益は1500万円(89.9%減)でした。流動比率は49%。

同社は2020年2月期の売上高を前年同期比0.3%増の151億円、営業利益を1億1800万円と予想している。しかし、第3四半期の売上高は102億4200万円(7.1%減)、営業損失が2億1100万円でした。2020年2月期でコロナの影響を受け、さらに3月から深刻な事態に見舞われると考えると、厳しい状況は続くものと予想される。

引用先: https://maonline.jp/articles/izakaya_cash_20200327